

Appointment and Web-based Communication Division

連携室 だより

2026年3月

春号

—Vol.61—



「瀧澤の車窓から～海東龍宮寺 韓国ブサン」撮影:旭川赤十字病院 副院長 瀧澤 克己

総合診療科赴任のご挨拶
睡眠時無呼吸の診療を始めました
当院の脳卒中診療 ～一次卒中センター「コア施設」(PSCC)として～
「ACT FAST」をクリティカルケアチームで支援することになりました!
地域ケアネット旭川 第15回症例検討会を当院で開催しました
WEB予約システム導入決定!
動画配信のお知らせ
人事消息

連携病院の皆様、いつも大変お世話になっております。

2025年12月より、平山智也先生が総合診療科の常勤医として赴任してくださいました。

先生は内科の専門医・指導医で、特に腎臓内科のスペシャリストであり、この度総合診療科に大変心強くお迎えさせていただきました。早速、月曜日から金曜日までの診療を担当していただいております、予約患者さんのみならず、当日紹介

や電話相談にも対応してくださっています。12月から約3ヶ月の間で、的確な鑑別診断により多くの稀少疾患も見つけてくださいました。一般外来研修の初期研修医達も、平山先生のご指導の下、総合診療の面白さを実感しています。

「何科に紹介したら良いかわからない」という症例がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただければと思います。



総合診療科赴任のご挨拶

総合診療科
医師 平山 智也

2025年12月1日付けで総合診療科 医師として赴任いたしました。

私は、1986年に旭川医科大学を卒業後、循環器内科医師として20年、腎臓内科医師として20年仕事をしてまいりましたが、定年あたり、これまでとは違った領域を勉強したいと思っておりました。ご縁があり、現職で仕事させていただくこととなりました。大変光栄に思うとともに、自分がお役に立つことが出来るか不安な毎日です。

幸い、赴任して2か月が経ちましたが、多くの登録医の先生方からご紹介いただくことができました。内科系の先生のみならず、外科系の先生方から、専門科に紹介するほど重症ではない症例、病態がはっきりしないので紹介すべき専門科がわからない症例や、診断や治療に難渋する症例など様々な場面でご紹介いただい

ております。初診ですぐに診断がつく症例もあれば、各専門診療科に助けていただきながら、診断に辿りつく症例もあり多彩な対応が要求されます。世の中に、こんなに診断がつかず困っている患者さんが多いことにも改めてびっくりいたしました。

専門医時代には、すでに診断がついて紹介される症例が多かったこともあり、改めて、総合診療の難しさを痛感する毎日です。月曜日から金曜日まで毎日外来を担当させていただきます。

今後とも、総合診療科がお役にたてるよう尽力して参りたいと存じます。よろしく願いいたします。

睡眠時無呼吸の診療を始めました

耳鼻咽喉科部長 片田 彰博

睡眠時無呼吸症候群がもたらすリスク

わたしたちは、人生の約3分の1を「眠り」の中ですごしています。「よい睡眠」が得られると、朝すっきりと目覚めることができ、日中に眠気や倦怠感がなく、心身ともに快適に生活することができます。「よい睡眠」とは単に睡眠の長さだけではなく、睡眠の深さやリズム、途中で目が覚めないことなども重要です。睡眠時無呼吸では夜間に呼吸が止まり血中の酸素が低下して、睡眠の質が低下するので、心身に大きな負担がかかります。放置すると、高血圧、脳卒中、心筋梗塞、不整脈、糖尿病、うつ病、さらには認知機能の低下など、全身的な病気を悪化させることが分かっています(図1)。



睡眠時無呼吸症候群の有病率

睡眠時無呼吸症候群は軽症の人を含めると日本では200万~500万以上の潜在患者がいると言われていています。睡眠時無呼吸症候群の有病率は年齢と共に増加する傾向にあり、働き盛り世代以降の男性に多く、治療介入が必要な中等症以上の睡眠時無呼吸症候群の有病率は成人男性の23.7%、成人女性の5.6%というデータもあります。その反面、実際に治療を受けている患者は推定罹病者の6~7%に過ぎないという報告もあります。表に示すような症状、生活習慣、持病がある方には睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査をすすめてください(表1)。

典型的な症状がある方
・ 大きないびき、息が止まるといわれたことがある
・ 日中の強い眠気や集中力の低下
・ 起床時の頭痛や口の渇き
・ 夜間頻尿、熟眠感がない
生活習慣病や持病がある方
・ 肥満 (BMI≧25) または首囲が太い (男性>40cm, 女性>35cm)
・ 高血圧 (特に薬を3剤以上つかっても改善しない)
・ 2型糖尿病
・ 心房細動、心不全、脳卒中の既往
・ メタボリックシンドローム
社会的にリスクが高い方
・ 自動車・重機などの運転業務従事者
・ 夜勤や交代勤務による不規則な生活
・ 居眠り運転や労災事故の既往
・ うつ病や物忘れがきになる中高年

睡眠時無呼吸症候群の検査

睡眠時無呼吸症候群の検査には自宅でおこなえる簡易検査と病院でおこなう精密検査があります。自宅での簡易検査でも重症度の判定や治療方針の決定ができるので、気になる症状がある方には耳鼻咽喉科の受診をすすめてください。また、ご家族の方が睡眠時無呼吸かもしれないとおもわれた場合には耳鼻咽喉科への受診を促してください。簡易検査では、睡眠中の無呼吸イベントの回数、血中酸素飽和度の低下、いびきの有無、睡眠中の体位(仰臥位、側臥位など)が記録されます。そのデータから重症度を判断して治療方針を決定していきます(表2)。



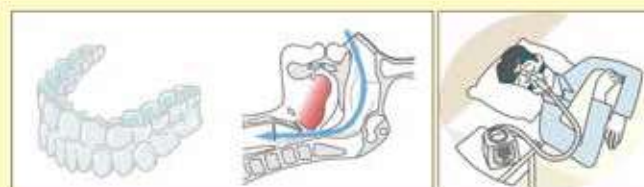
表2.睡眠時無呼吸症候群の治療方針

無呼吸や低呼吸の回数 (AHIやREI*)	治療方針
1時間に5回未満	睡眠時無呼吸症候群は否定的です。
1時間に5~40回	口腔内装置(OA)の保険適応です。自覚症状や合併症がある場合は、入院での精密検査をおすすめします。
1時間に40回以上	CPAP療法の保険適応です。

*REIは、Respiratory event indexの略で、1時間あたりの無呼吸や低呼吸の回数を測定時間で割ったものです。在宅検査では、REIで評価する簡易型の機器が主流です。

耳鼻咽喉科における睡眠時無呼吸症候群の治療

睡眠時無呼吸症候群には閉塞性、中枢性、混合性の3つのタイプがあります。最も多いタイプは「閉塞性」であり、上気道の狭窄部位が閉塞して無呼吸を生じます。耳鼻咽喉科は上気道の狭窄部位を視診や内視鏡検査で直接観察することができる唯一の診療科です。狭窄部位が鼻や咽頭・喉頭であれば、手術によって狭窄を解除して気道を拡大することもできます。また、手術による治療が難しい場合でも、口腔内装置(Oral Appliance: OA)による治療や持続陽圧呼吸療法(CPAP)を管理・指導することができます。



最後に

診察中の患者やその家族から睡眠障害に関する相談があった場合、また肥満気味で、高血圧、脳卒中、心筋梗塞、不整脈、糖尿病、うつ病を発症している方には、睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング検査を受けるために耳鼻咽喉科を受診するよう、指導をお願いいたします。

当院の脳卒中診療 ～一次卒中センター「コア施設」(PSCC)として～

脳神経外科部長 脳血管内治療指導医 和田 始

わが国では、高齢化に伴う循環器病患者の増加と医療費負担の増大に対応するため、2018年に「循環器病対策基本法」が成立し、翌2019年に施行されました。これにより、脳卒中と循環器病対策が一体的に推進され、国民の健康寿命の延伸と社会全体の負担軽減が図られています。

日本脳卒中学会では、国内のどこに住んでいても質の高い脳卒中診療が受けられる体制を目指し、2019年より「一次脳卒中センター(PSC)」の施設認定を開始しました。さらに、脳梗塞急性期における「血栓回収療法」の重要性が高まるなか、より高度な治療を安定して提供できる施設として「一次脳卒中センター(PSC)コア施設(PSCC)」の認定制度が新たに設けられました。これは従来のPSCの基準に加え、さらに厳しい要件をクリアした施設のみが認定される、地域医療の要(コア)となる資格です。

現在、四国4県に匹敵する広大な面積を持つ道北地方において、PSCC認定施設は当院と旭川医科大学病院の2施設のみとなっています。

当科は開設当初より、道北地方における脳神経外科疾患の「砦」として、特に開頭手術において高い評価をいただけてまいりました。現在は血管内治療のスタッフも充実し、従来以上に幅広い疾患に対して最善の医療を提供できる体制が整っております。今後も道北の

脳卒中診療の中核として、「断らない医療」をモットーに、24時間365日体制で地域の皆さまの安全と安心を支えてまいります。症例のご相談やご紹介がございましたら、いつでもお気軽にご連絡ください。

【PSCC認定に求められる5つの基準と当院の現況】

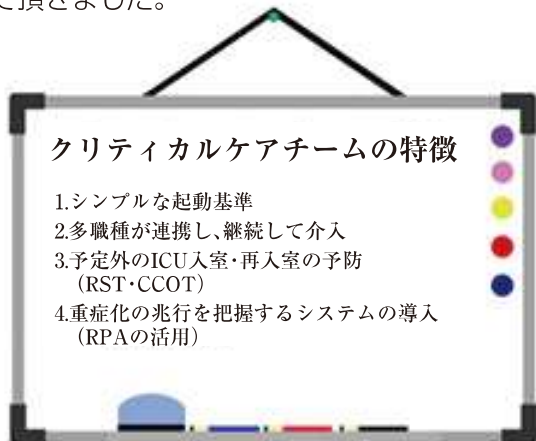
- 1.一次脳卒中センター(PSC)に認定されていること
当院はPSCとして年間900～1000件の豊富な診療実績があります。
- 2.専門医・実施医の体制
(血管内治療専門医と血栓回収実施医が常勤3名以上)
脳血管内治療指導医である筆者をはじめ、3名の血管内治療専門医(櫻井寿郎部長、鈴木良介医師、奥山友浩医師)、1名の血栓回収実施医(平林拓海医師)が在籍しています。
- 3.血栓回収治療の実績(年間12例以上)
2024年度は66例の血栓回収療法を実施しました。
- 4.24時間365日の対応体制(血栓回収治療)
血管内治療医に加え、計11名の脳神経外科スタッフが24時間365日体制で急患に対応しています。
- 5.脳卒中相談窓口の設置
相談窓口を完備し、急性期治療からその後のケアまで切れ目のない支援を提供しています。



「ACT FAST」をクリティカルケアチームで支援することになりました!

救命救急センター長 川田 大輔 脳卒中看護認定看護師 清水 力也 ICU・CCU師長 大塚 操

前回の「地域連携だより」で当院のクリティカルケアチームの活動の4つの特徴を紹介させて頂きました。



今回、当チームの活動に「ACT FASTの支援」が加わりましたので、ご紹介させていただきます。

「ACT FAST」とは、脳卒中の可能性が高いと考えられる初期症状を示したキーワードです。「脳卒中の疑いがあれば、すぐに病院へ」という意味が込められており、脳卒中の兆候に関する知識を向上させるのに役立つツールとして、厚生労働省や日本脳卒中学会が啓発しています。テレビCMでも流れたことがあり、ご存じ

の方もいると思います。

当院は、「一次脳卒中センター」として、道北の2次3次医療圏の脳卒中患者を受け入れ、搬送後は速やかに、静脈血栓溶解薬アルテプラゼ(rt-PA)療法、血栓回収療法、外科的治療を行う体制を整えています。しかし、脳卒中は入院中も起こります。2024年度当院での院内発症脳卒中発症数は14件でした。

そこで、当院では院内発症脳卒中を速やかに発見・対処するため、クリティカルケアチームが支援することになりました。現在、当院の脳卒中看護認定看護師が中心となり、「ACT FAST」を一般病棟に広めています。また、脳外科医師の協力のもと、「ACT FAST」の症状が出現した際の対応プロトコールも作成しています。この活動により、院内発症脳卒中に特化した「何かおかしい」に速やかに対処できるようになり、最小限の後遺症にとどめることができると考えています。

クリティカルケアチームは、今後も、院内の入院患者の急変徴候を速やかに捉え、対応することにより、急変及び病状悪化を防ぎ、医療安全の向上に貢献するため、活動していきます。

Face	Arm	Speech	Time
顔	腕	言葉	すぐ受診
			
顔半分の麻痺、 顔の片側が下がる	片方の手に力が 入らない	呂律が回らない、 言葉が出ない	すぐに救急車を呼ぶ 症状が出た時の 時間を確認*
ACT FAST(アクト ファスト)は、米国脳卒中協会が提唱しているスローガン			*あるいは元気な姿を 最後に見た時間

地域ケアネット旭川 第15回症例検討会を当院で開催しました

看護副部長 兼 医療支援センター副センター長 松田 哲子

旭川市医師会からの開催協力依頼を受け、2026年2月6日(金)18時30分～20時、当院講堂において「地域ケアネット旭川 第15回症例検討会」を開催しました。

旭川市医師会では、在宅医療を望む患者・家族が安心して在宅療養へ移行できるよう、医療者同士が顔の見える連携を構築することを目的に「地域ケアネット旭川」を設立し、病院・診療所の医療関係者に向けて在宅ケアの理解促進や知識・技術向上のための活動を進められています。今回の症例検討会は、その会員を対象として当院で実施したものです。

当日は暴風雪警報が発令される悪天候にもかかわらず、院内外から70名の参加がありました。検討症例は、当院消化器内科に入院した患者の在宅移行と在宅看取りを実現した事例でした(別紙1)。

グループワークでは、参加者が自身の現場で経験する「同様の困難があるか」「その際どのように解決してきたか」といった点を共有し合いました。また、世代をまたいだ家族ケアの難しさ、家族間の価値観の違い、在宅移行のタイミング調整など、日頃抱える課題について多職種の視点から意見が交わされました。立場の異なる参加者が率直に語り合うことで、支援の工夫や連携のヒントが見える有意義な時間となりました。

開催にあたり、当院では約3か月前より地域医療連携室長、入退院支援室長、訪問看護ステーション管理者、地域連携部門担当の看護副部長が役割分担し、準備を進めてまいりました。今回の検討会が、

1. 在宅へ送り出す側と受け手双方の困難や課題を共有し、相互理解を深めること
 2. 質の高い在宅ケアとは何かを多職種で考える一助となること
- につながれば幸いです。

《日本医師会生涯教育講座》 地域ケアネット旭川第15回症例検討会

日時：令和8年2月6日(金) 18:30～20:00

会場：旭川赤十字病院 外来棟 2階 講堂

旭川市曙1条1丁目1番1号 旭0166-22-8811

- 1.開会挨拶 今本内科医院 院長 今本 千衣子 先生
- 2.漢方ミニレクチャー 18:35～18:45
座長：及川医院 院長 及川 太 先生
演者：旭川赤十字病院 消化器内科 長谷部 拓夢 先生
演題：「フレイルに用いる漢方処方の考え方」
- 3.症例検討会 18:45～19:15
《事例1》
座長：及川医院 院長 及川 太 先生
「目指して迷って辿り着いた？～そのままの家の形の日常と穏やかな旅立ち～」
病院主治医：旭川赤十字病院 消化器内科 黒田 祥平 先生
担当MSW：旭川赤十字病院 入退院支援室 社会福祉士 新見 瑞希 様
在宅主治医：まるまめ在宅診療所 院長 松本 学也 先生
訪問看護ST：旭川赤十字訪問看護ステーション 管理者 看護師 五林 郁子 様
《事例2》
座長：北星ファミリークリニック 院長 村井 紀太郎 先生
「本人の希望を尊重した在宅看取りと多世代家族の関わり」
病院主治医：旭川赤十字病院 消化器内科 上平 佳奈 先生
担当看護師：旭川赤十字病院 入退院支援室 保健師 番匠 美帆 様
在宅主治医：道北勤区協一条通病院 総合診療科 西村 涼 先生
訪問看護ST：訪問看護ステーションぬくもりポート 看護師 十鳥 勇太 様
- 4.グループワーク 19:15～19:55 座長：北星ファミリークリニック 院長 村井 紀太郎 先生
- 5.各グループワークの共有、質疑応答 19:55～20:00
- 6.閉会挨拶 北星ファミリークリニック 院長 村井 紀太郎 先生

共催 旭川医師会 / 旭川赤十字病院 / 株式会社ツムラ

今後も地域の医療・介護・福祉機関の皆さまと連携し、在宅療養への移行支援の質向上に向けた取り組みを進めてまいります。引き続き、当院の療養移行支援へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



悪天候にもかかわらず多くの参加者が集まった会場風景

WEB予約システム導入決定！

地域医療連携室

現在、当院ではFAXによる外来診療予約と一部の診療科で患者からのTEL予約を行っておりますが、このたびWEB予約システム導入が決定しました。現在、より多くの診療科に対応できるように各診療科と調整しております。

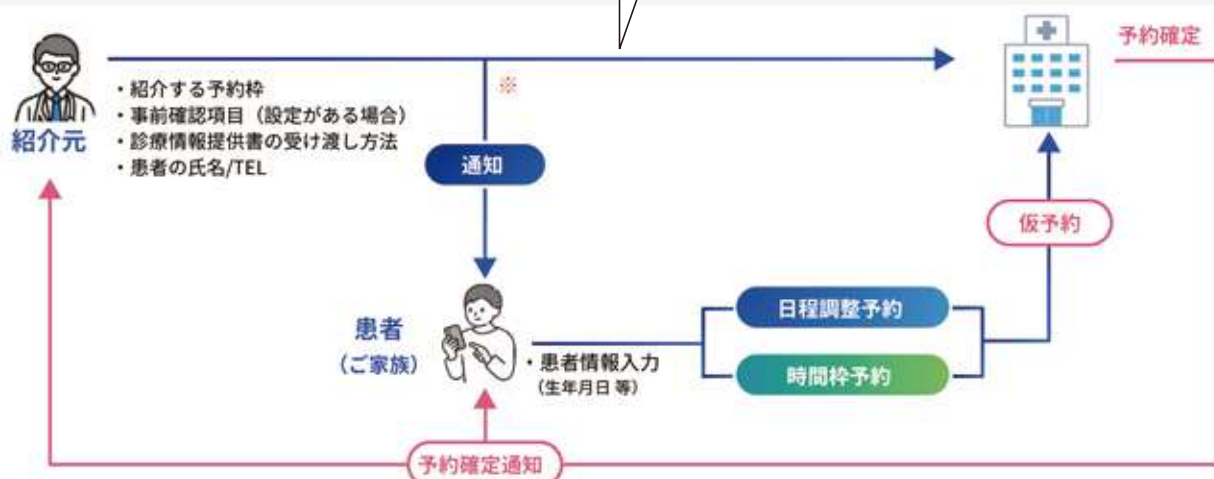
WEB予約システム導入により、平日時間外および休日においても当院外来予約、共同利用

(CT/MRI)の予約が可能となります。また、患者さんのスマートフォンから日程調整を可能とすることでご紹介をいただく先生方の負担軽減につながることも期待されます。

運用開始となりましたら、改めましてご案内をさせていただきますので、もうしばらくお待ちください。

《WEB予約システム予約フロー》

- 診療科、予約枠、患者情報等をWEB予約システムに登録(24時間予約可能)
- 患者(ご家族)が日程調整(時間枠予約)することも可能



※紹介元がそのまま予約を行うことも可能です。

動画配信のお知らせ

地域医療連携室

2月10日に開催した「第24回 旭川赤十字病院 医療連携の集い」に170名もの参加をしていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。当日の講演につきまして動画配信をしております。当院HPもしくは下記QRコードより視聴可能となっております。

《動画配信》当院HP → 医療関係の方へ →

QRコード 地域医療連携室 → 市民公開講座、症例検討会などのご案内



人事消息

新任医師

令和7年12月1日付

総合診療科
医師

ひらやま ともや
平山 智也

令和8年1月1日付

麻酔科
医師

まつばら かんた
松原 寛太

令和8年1月1日付

心臓血管外科
医師

しらくら けんたろう
白倉 健太郎

退職者

令和7年11月30日

臨床研修医

川口 菜々子

令和7年12月31日

歯科口腔外科 嘱託医師

池畑 正宏

令和7年12月31日

麻酔科 医師

長島 かれん

令和8年2月17日

形成外科 診療部長

丹代 功

令和8年2月28日

心臓血管外科 医師

白倉 健太郎

理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
2. 急性期医療を中心に安全で安心できる診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関、介護・福祉施設との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちは患者さまの権利を尊重します

適切に医療を受ける権利

医療に関して知る権利

医療行為を自分で選ぶ権利

プライバシーを保障される権利

人権を尊重される権利

セカンドオピニオンを受ける権利

旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

1. 私たちは、来院される方と職員に笑顔であいさつをします
2. 私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
3. 私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
4. 私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
5. 私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

発行

旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号

tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)

URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email renkei@asahikawa.jrc.or.jp